

施工BIMのインパクト2025

主催：日刊建設通信新聞社

施工BIMの最新動向2025

2025.12.17

日本建設業連合会

建築生産委員会 BIM部会長

曾根 巨充

(前田建設工業株式会社)



施工BIMのインパクト2024

2024.11.07

@WEB (事前収録)

主催：日刊建設通信新聞社

視聽者：

1,075名

※オンデマンド期間含む

日建連 | 建設業の長期ビジョン2.0 (202507)

スマートなけんせつのチカラで未来を切り拓く

—— 建設業の長期ビジョン 2.0 ——

近年のデジタル・AI技術の進展には目を見張るものがあり、これらが、労働集約的な面の強い建設産業の生産性を飛躍的に向上させ、建設現場をより魅力的なものに大きく変革する可能性もあり、できる限りその見通しを示す必要がある。



本講演ではBIMに関する取り組みの視点と今後の方向性について全体像を概観

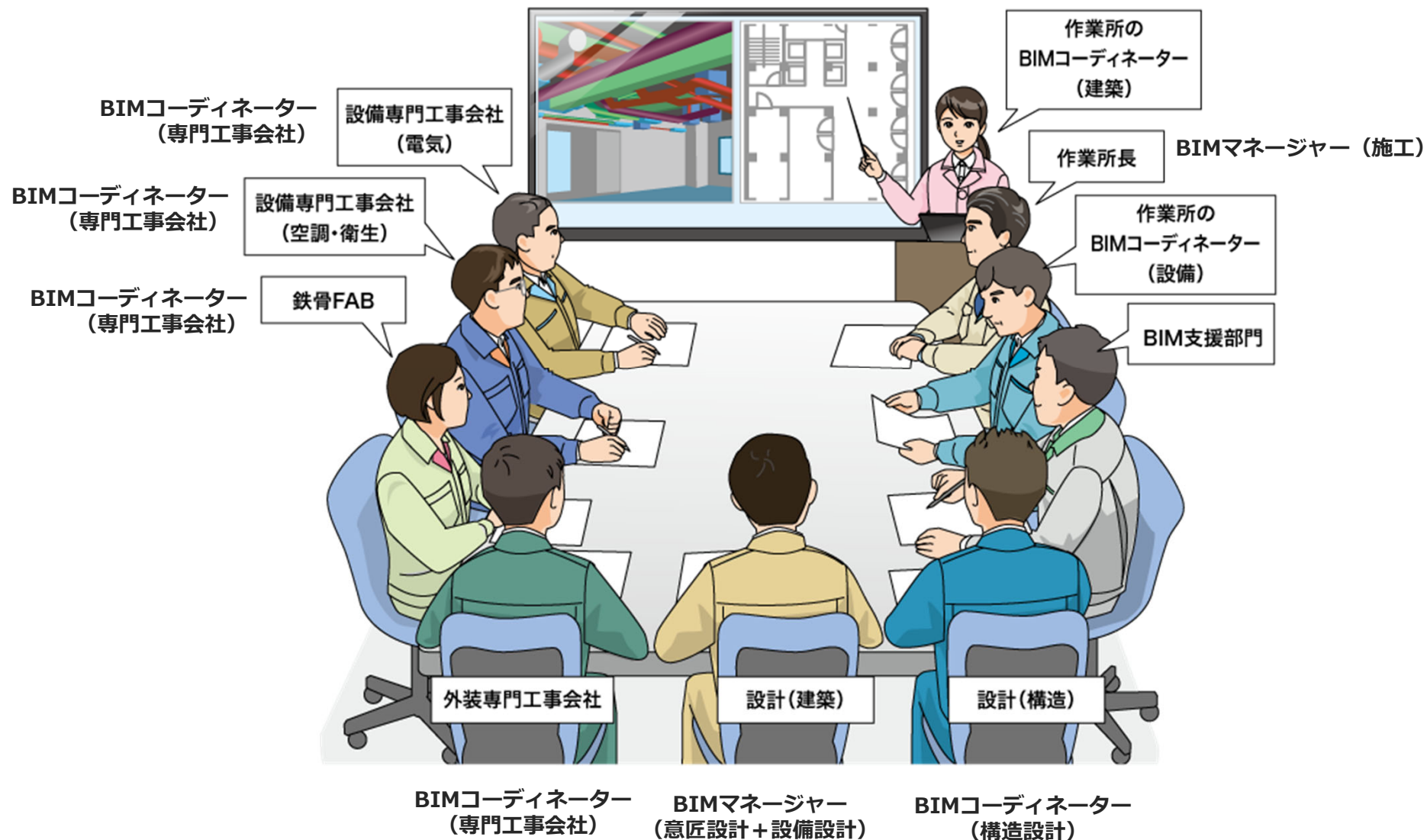




アジェンダ

- 1 はじめに | 現状の整理 (2025)**
- 2 日常業務で確立から定着を目指す (2030)**
- 3 取り組みに関する視点 (例)**
- 4 おわりに | 今後の方向性**

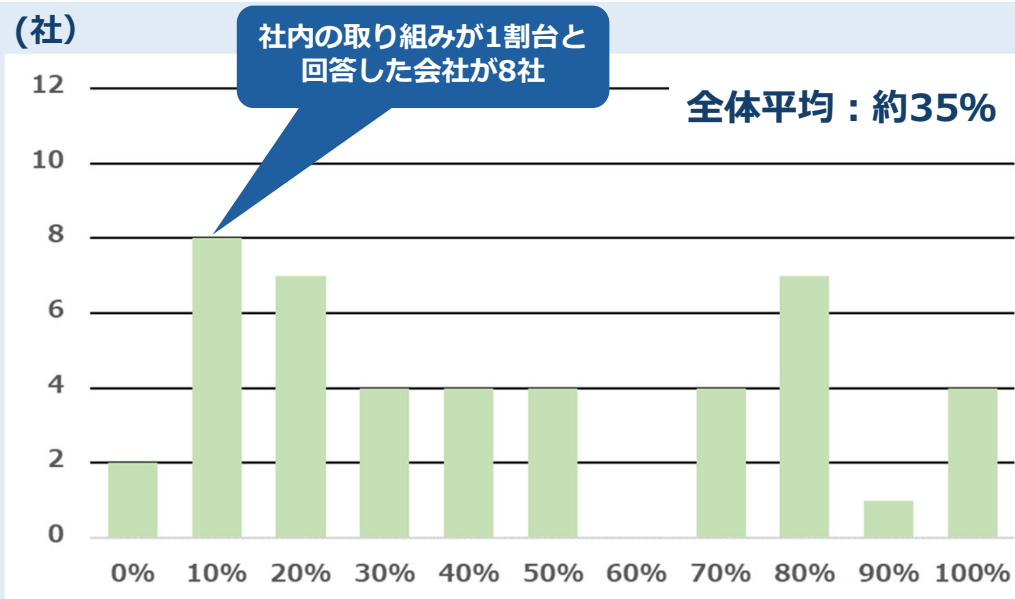
はじめに | 現状の整理 (2025)



BIMの現状 | 二極化の傾向（設計・施工とも）

設計BIMへの取り組み

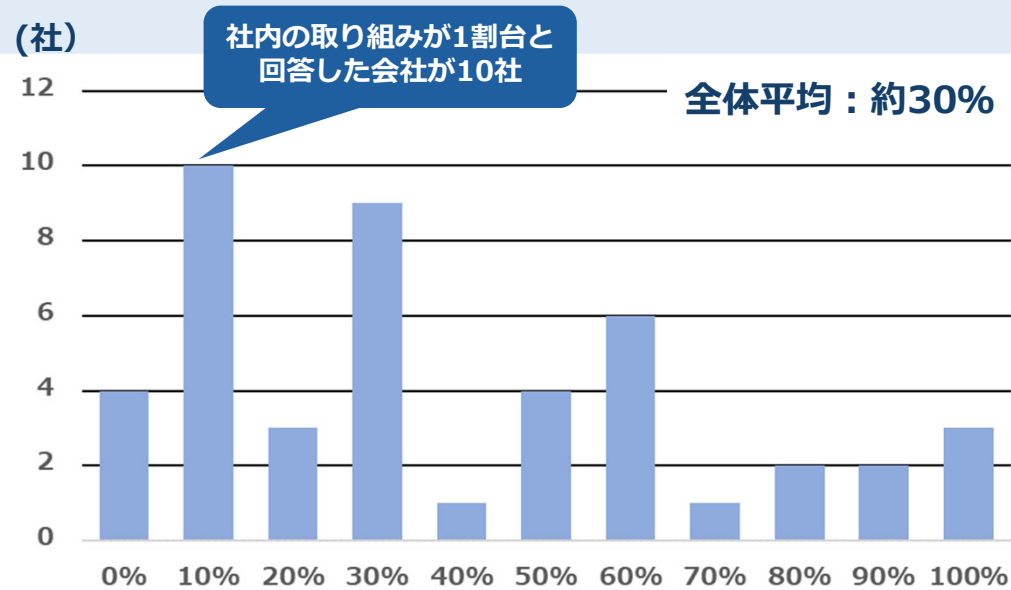
n=45社



▲ 設計BIMに取り組んだ案件の割合

施工BIMへの取り組み

n=45社



▲ 施工BIMに取り組んだ案件の割合

◎ 多くの企業でBIMの取り組みが進んでいる。二極化の傾向であるが、取り組みは深化していると推察

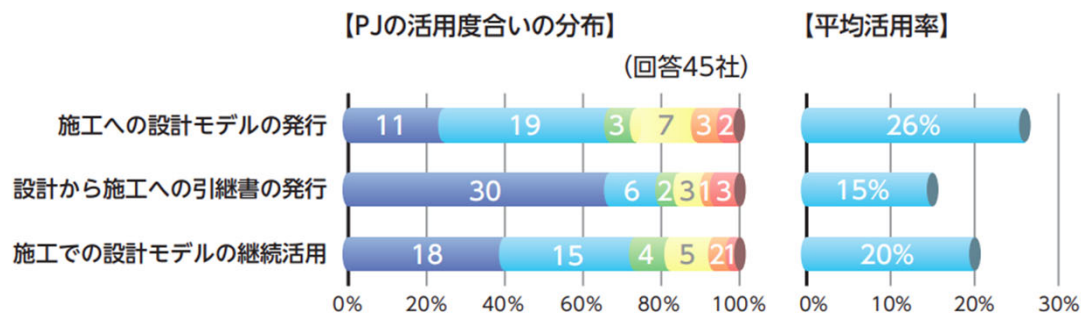
連携 | 設計⇒施工、専門工事会社とも増加

設計と施工のデータ連携

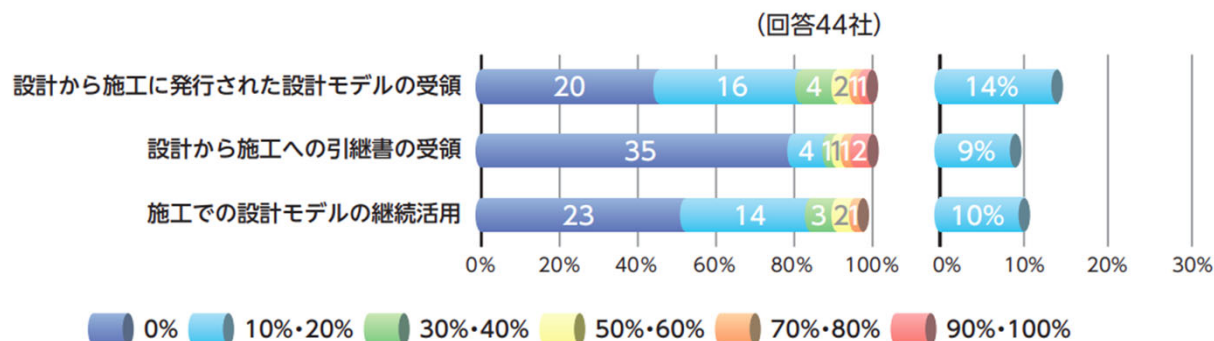
n=45社

アンケート2023

設計施工一貫



設計施工分離



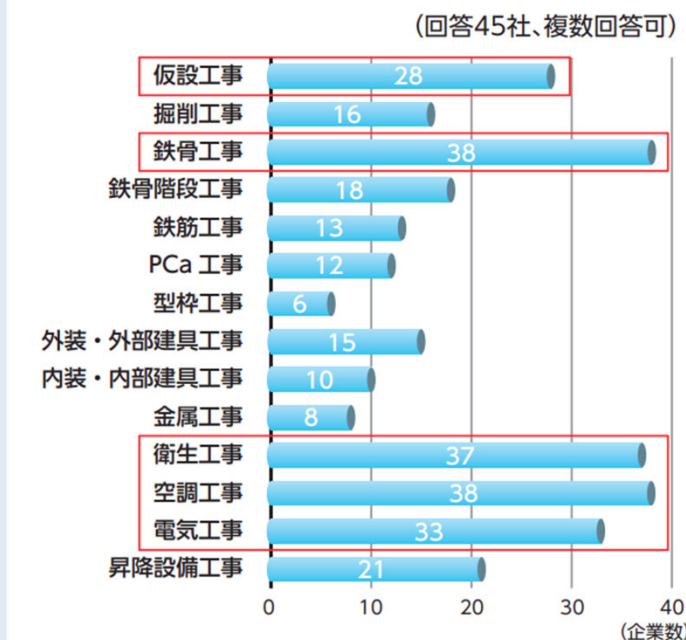
▲ 設計と施工のデータ連携（上段が設計施工一貫発注、下段は設計施工分離発注の場合）

図版出典：施工BIMのスタイル 事例集2024、日本建設業連合会、2025.3

専門工事会社とのデータ連携

n=45社

アンケート2023



▲ 工種別の専門工事会社との連携

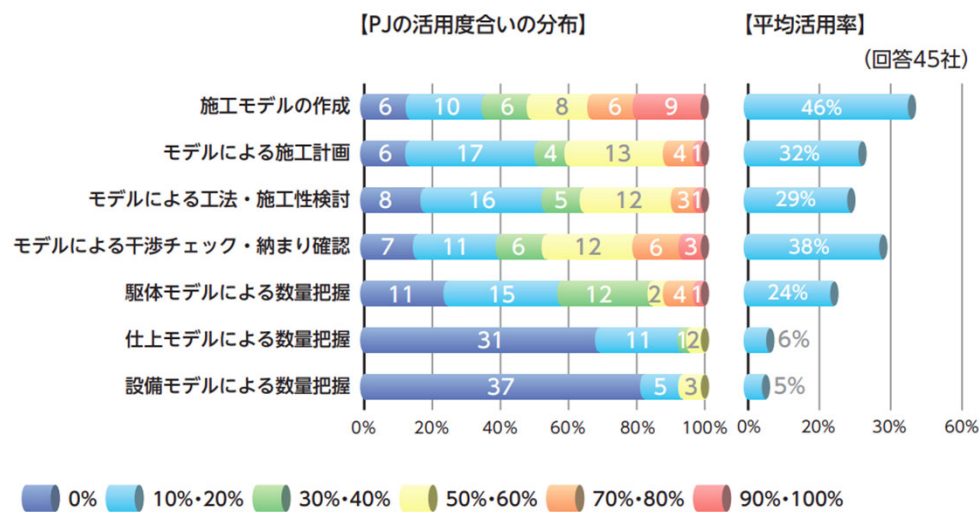
施工BIMのインパクト2025

活用 | 計画・検討は多いが施工管理の適用が停滞

計画・検討 | バーチャル

n=45社

アンケート2023



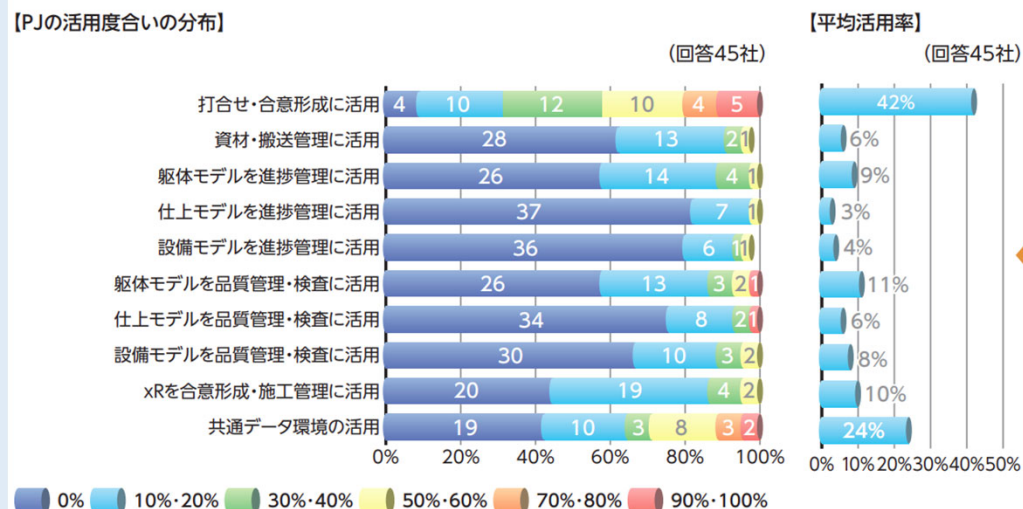
▲ プロジェクトの活用度合（施工BIM）

- ◎ とりあえずBIMのモデル作成は定着
- ◎ 施工計画や干渉確認では活用度合が高い

管理・製作・活用 | フィジカル

n=45社

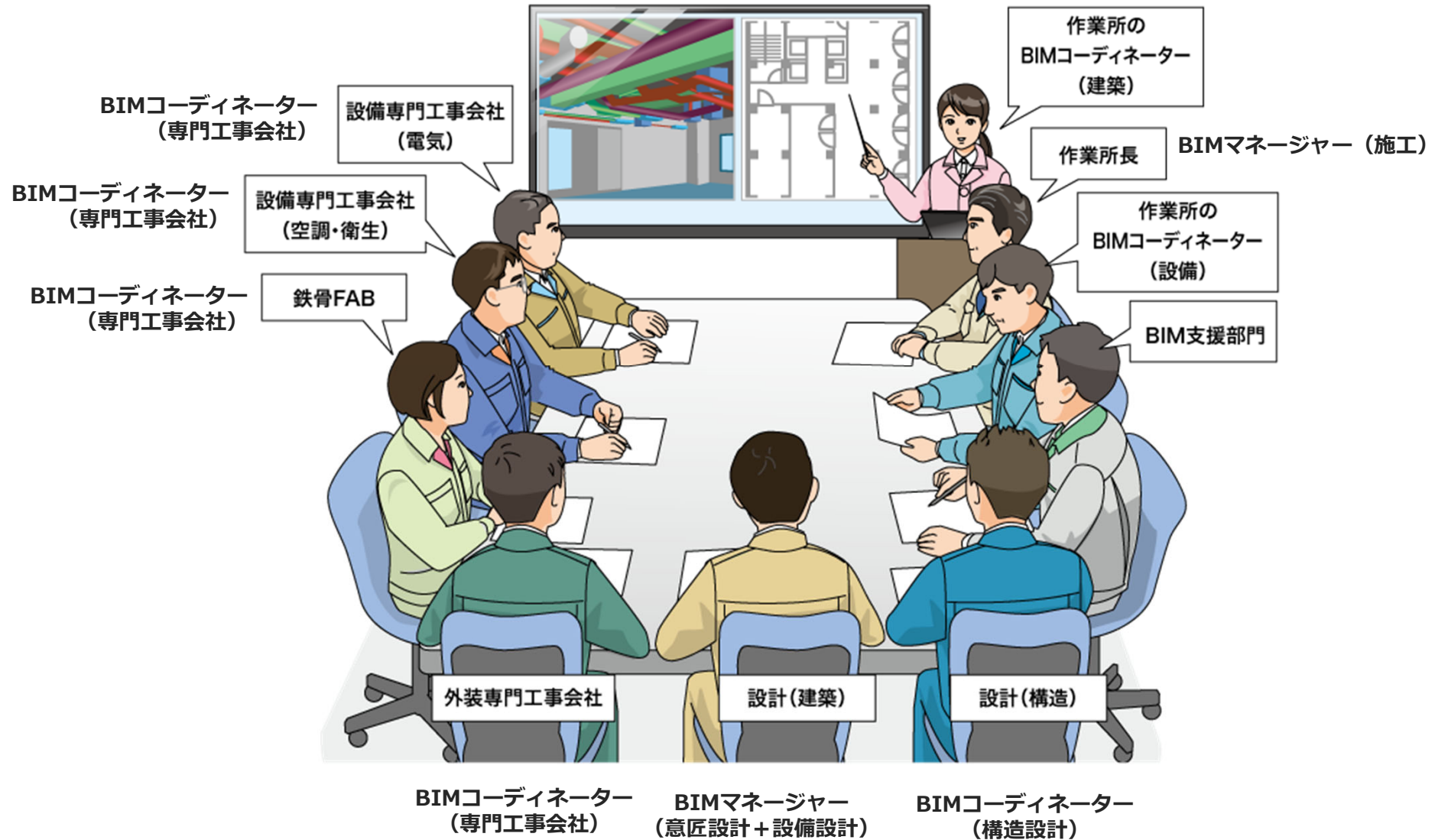
アンケート2023



▲ プロジェクトの活用度合（施工BIM）

- ◎ 打合せ・合意形成での活用は定着しつつある
- ◎ 施工管理業務などでは活用が少ない（BIMだけでは難しい）

日常業務で確立から定着を目指す（2030－）



取り組む？取り組まない？から取り組むことが前提

2050年 | 建設業はさらに進化

2050年を目標時点とするのは、その時代の建設業の中核を担うこととなる今の若い人たちに夢と希望を抱いてもらうとともに、建設業のことをよく知らない方々に少しでも建設業の将来への理解を深めてもらう

第3章 2050年の建設業の姿

AIやロボットの活用によるデジタル化が進展

建設業従事者の役割・作業環境・労働条件、生産体制が抜本的に変革

高度な技術・技能を持つ プロフェッショナルの集合体

- ・ 技能労働者の労働内容はより進化した、高技能・高収入なプロフェッショナルなものに
- ・ オフィスからロボットを遠隔管理
- ・ 技術者と技能労働者の融合やマルチタスク化の進展
- ・ 仮想空間や遠隔作業の実現で、事業展開がボーダレスに

飛躍的な技術革新でスマートに生産する 次世代現場

- ・ 建築物や資機材の工業化・規格化・モジュール化が普及
- ・ 完全自動施工により、時間や天候の影響が最小限に
- ・ 単品受注生産・現地施工方式は、プレミアムな建築物を求める顧客層向けの高価値のサービスに

安全・安心社会の 「守り手」

- ・ 先端技術等を活用した予防保全型のメンテナンスの実施
- ・ 災害時に広域応援体制を構築
- ・ 危険地での遠隔操作による迅速な復旧を実現
- ・ 高効率な生産プロセスによる早期復旧を実現

未来のまち、国、世界、フロンティアを拓く 「イノベーター」

- ・ 社会的課題に建設業が企画・開発・運営の全段階で貢献
- ・ 技術力で世界の持続的な発展を先導
- ・ 未知領域で建設業が先端技術提供

▲ 2050年の建設業の姿

2035年 | 2050年に向けて10年が大きなカギ

(2050年に向けて) 進化の道筋を歩んでいくには今後の10年が大きなカギを握ることから、(中略) 建設業が、当面の危機を克服して、2050年に向かってイキイキと突き抜けていけるように具体的な方策を提示

具体的方策 生産性向上

目標 2025年比で、生産性を25%向上

建設現場における 施工のオートメーション化・スマート化

- ・ 工業化（プレキャスト化、3Dプリント等）・規格化の推進
- ・ 自動運転技術・自律型重機等の導入 など

デジタル技術を活用した 建設プロセス全体に亘る省人化・省力化

- ・ BIM/CIM、XR技術、ドローン、ロボットの活用

具体的方策 多様化する新たな社会的課題の解決への貢献

目標 施工段階におけるCO₂排出量を2013年度比60%削減

地域社会・国への貢献 (まちづくり、エネルギー)

- ・ 老朽化したインフラの長寿命化のための技術提案
- ・ 都市のエコシステム化への技術貢献

地球環境保全への貢献

- ・ 「カーボンニュートラル」の実現に向けた設計、施工等各段階での取り組み
- ・ ネイチャーポジティブの実現に向けた建設活動手法の研究開発と普及促進

世界への貢献

- ・ アジア・アフリカ地域への質の高いインフラ提供
- ・ 「課題先進国」日本の建設業として、環境、エネルギー、交通、災害等の技術やノウハウを諸外国に提供

▲ 生産性向上（2035年に向かって）

施工BIM | 目的や取り組み項目はほぼ確立

はじめ方



▲ 発行：2017.11

すすめ方

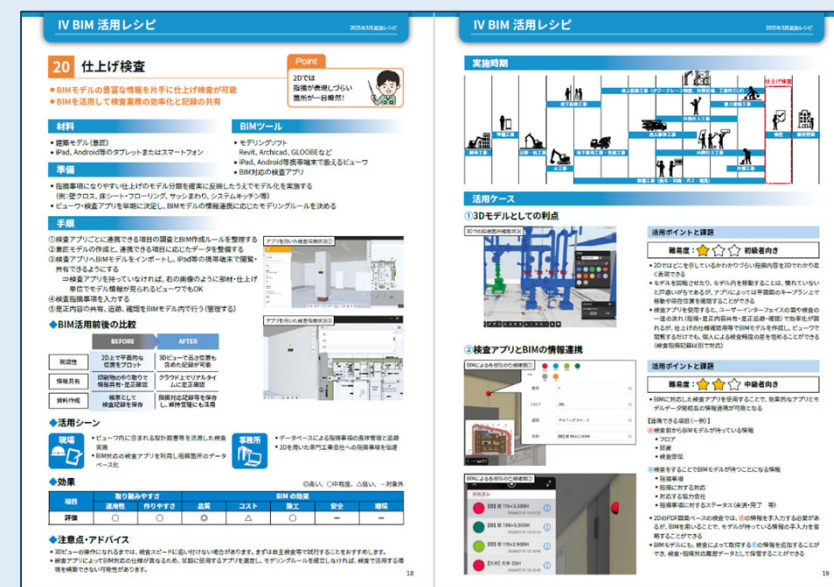


▲ 発行：2021.3（2014の改訂）

つかい方



▲ 発行：2022.12（第2版）

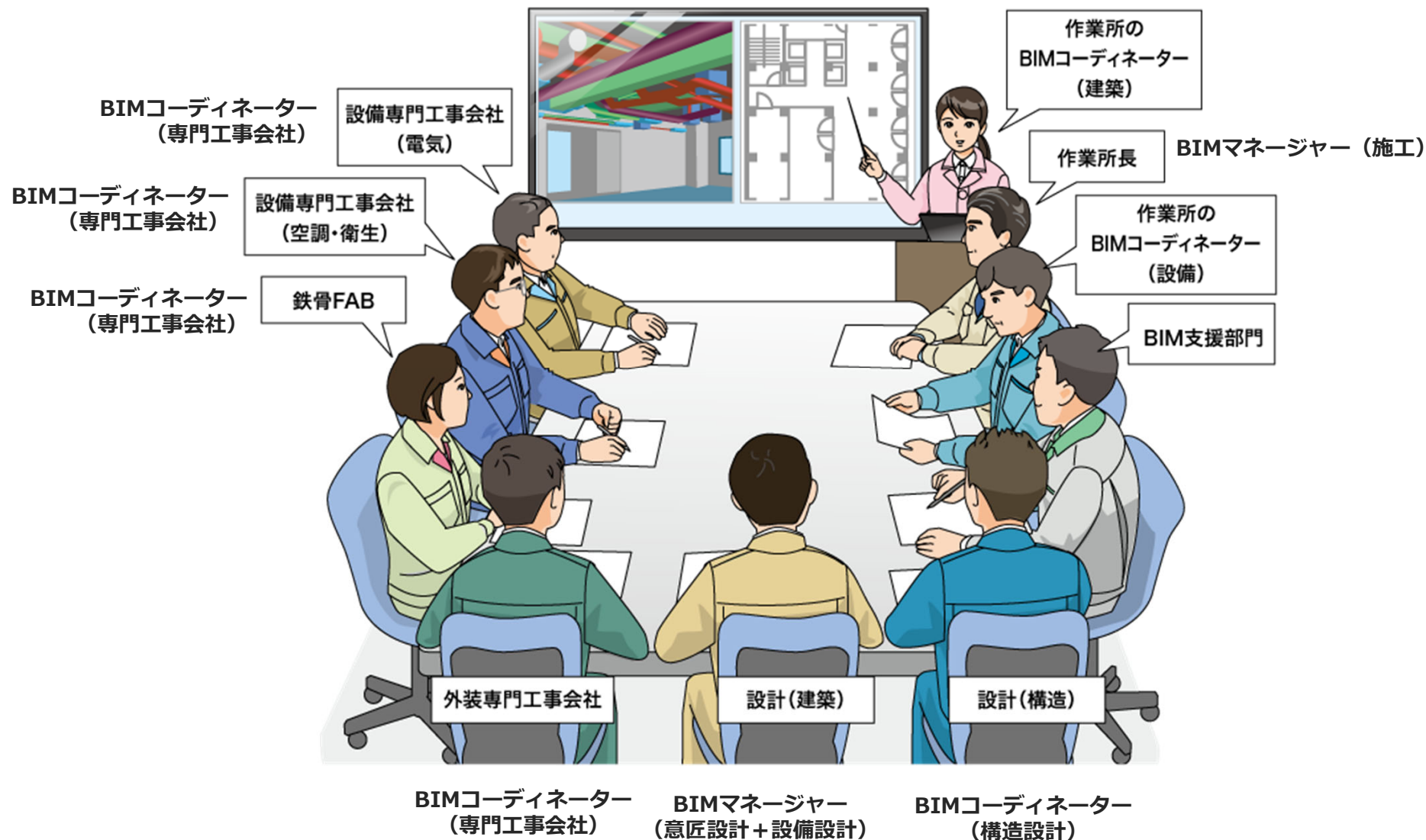


▲ 発行：2025.6（増補第3版）

- ◎ 【課題解決】 建築生産プロセスにおける積年の課題は変わらない（整合性／可視化／情報共有基盤）
- ◎ 【時代変化】 建設業以外の産業の技術革新と融合（AI等） | 【プロセス】 再評価・最適化（FL／DfMA※／BOM※※）

※DfMA:建築の工場生産化のこと。1990年代からの英国の政策課題のひとつ。Design for Manufacturing and Assemblyの略称
 ※※BOM:製造業において製品を製造するのに必要になる「部品表」「部品構成表」のこと。Bill Of Materialsの略称

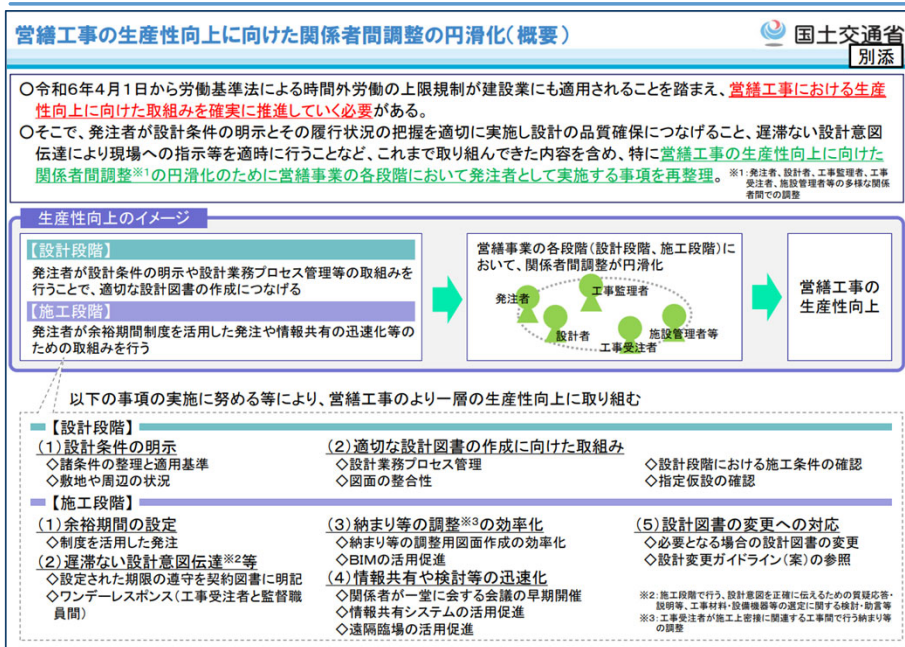
取り組みに関する視点（例）



視点① | 発注者の役割の変化（例）

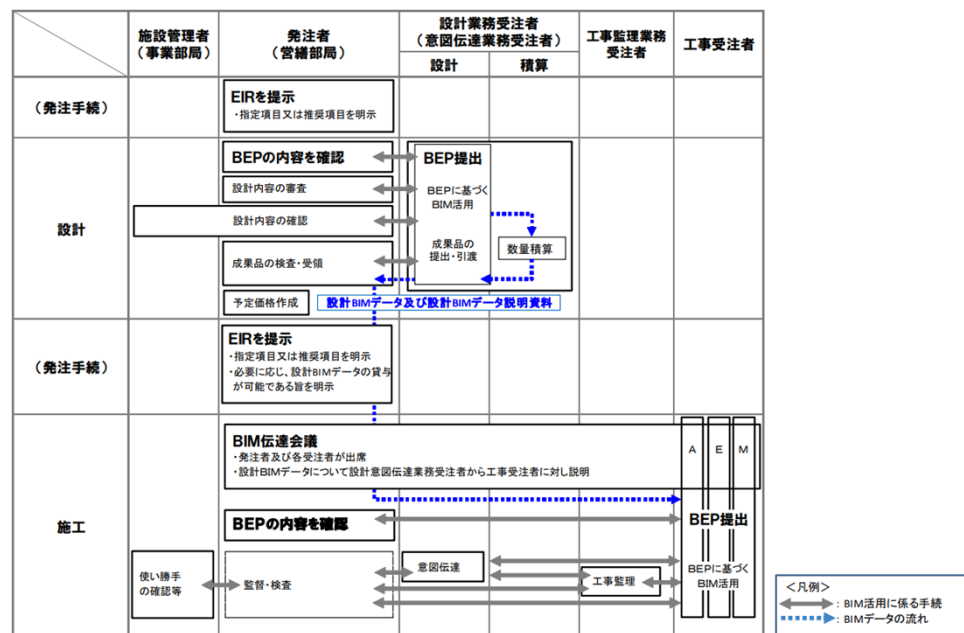
【生産性向上】 入札契約方式の多様化にともない発注者の役割が変化（国交省大臣官房官庁営繕部）

関係者間調整の円滑化（2023.3）



▲ 営繕工事の生産性向上に向けた関係者間調整の円滑化

EIRの作成（2024.3）



▲ 官庁営繕事業における BIM 活用に係る手続等の流れ

◎ 目的：設計業務及び工事の品質の確保及び事業の円滑化を図り、これらを通じて**生産性の向上に資すること**

図版出典（左）：営繕工事の生産性向上に向けた取組みを確実に推進します～営繕事業の各段階において発注者として実施する事項を再整理～、国土交通省、2023.3

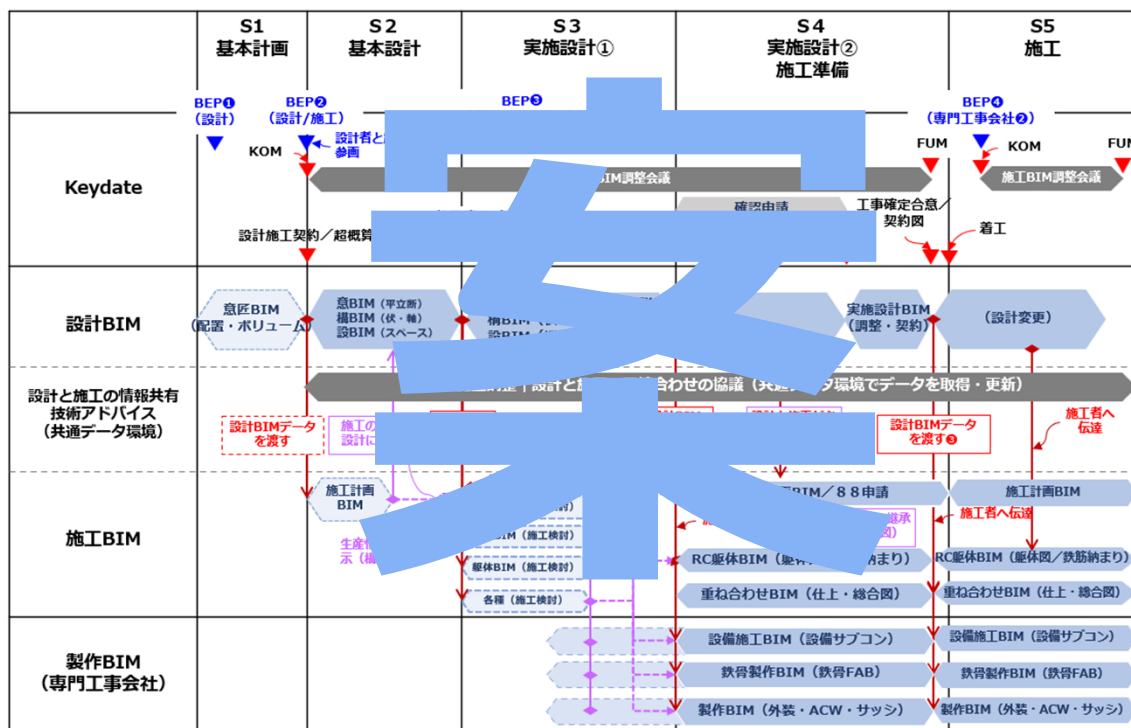
図版出典（右）：官庁営繕事業における BIM 活用実施要領（令和6年改定）、国土交通省、2024.3

施工BIMのインパクト2025

参考 | 施工BIMの領域が上流（設計）に広がる

施工BIMのフィールドが設計段階まで拡大の可能性

BIMによる設計部門と施工部門の共創（例）



想定建物：設計施工一貫方式 | S造 | 杭基礎 | 地下1階・地上10階 | 解体工事なし | 延床：5,000m² | 設計・施工の工程は現状を踏襲

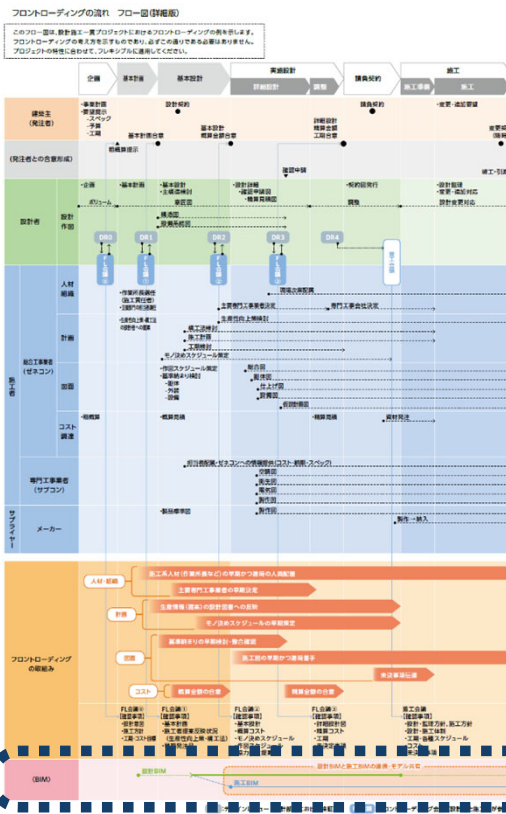
表中の () はBIMを活用した場合を示す一例です

▲ 設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー（素案）

図版出典（左）：設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー（第4版）素案、日本建設業連合会建築BIM合同会議、2025.11

図版出典（右）：フロントローディングの手引き2019、日本建設業連合会、2019.7

FLとの関係性 ▷ 発注者のリスク回避



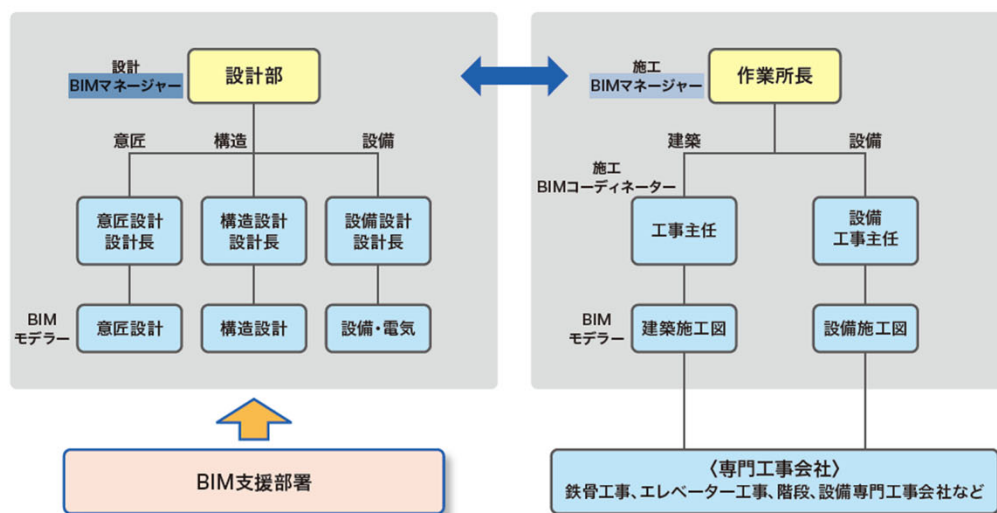
▲ フロントローディングのワークフロー

- ◎ 建築生産を考えるとBIMのワークフローは、全体プロセスの切り取り
- ◎ 積算・発注・調整などの業務と連携できるプロセスとの融合が必要
- ◎ 発注者の参画度合によりPJの生産性に影響を与える可能性が大きい

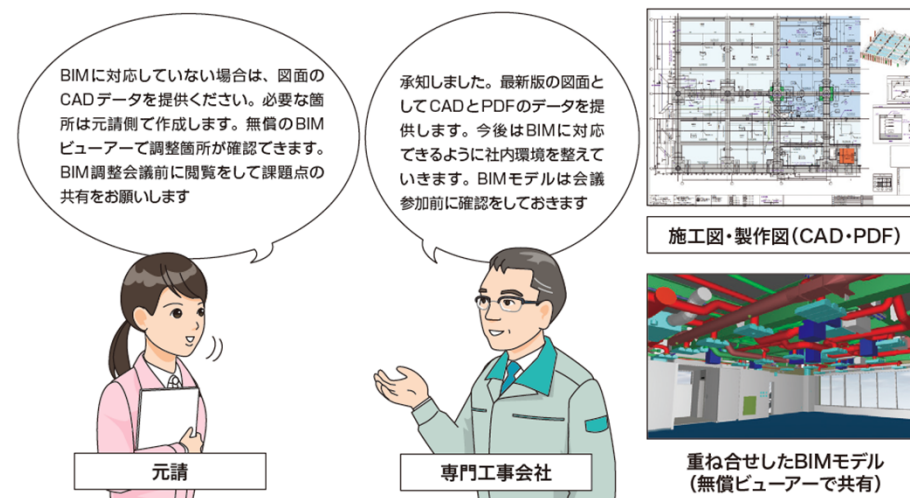
BIMは建築生産プロセスの一部を担う重要なツール。適用することでより高い効果が期待できる！

視点② | BIM未活用層の価値を最大化

【施工管理①】 構造的な課題の払拭 | 推進部門と現業部門の距離感



▲ 施工BIMの取り組み体制（例）



▲ 専門工事会社にも効果の享受を考えているのかが問われる

- ◎ 多くの企業で「推進（支援）部門」が設置されたが、生産現場と推進の関係は……
- ◎ 施工BIMの取り組み主導者（BIMマネージャー）として作業所長の配置（理解）が有効
 - ▷ 現業との乖離が続いてしまう傾向にある印象 ▷ 決定権を持つ方が主導しないと推進と現業の乖離が進む

参考 | 作業所長が主導するBIMの活用（例）

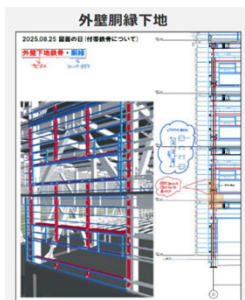
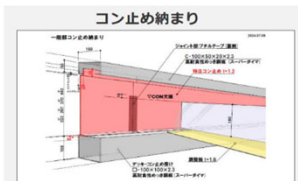
日建連 第8回作業所長講演会 | BIMがすべての発表資料で取り上げられた（2025.10）

5. 技術力の承継

② 品質の日（第2週目）

工務課から施工図の納まりを説明

- ✓ 品質の重点ポイント
- ✓ 工程内検査項目の共有
- ✓ 絶対に施工確認してほしいポイント
- ✓ 検査、写真、チェックシート重要性
- ✓ チームの一員として責任感を持たせる

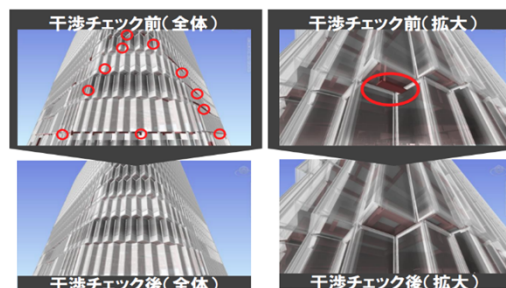


第8回 作業所長講演会



3-① 施工図改革

3. 干渉チェックによる施工不具合の低減



- NavisWorksにて
- 干渉チェック
- ① 各所外装と鉄骨との干渉を確認
 - ② 構造設計者へ確認
 - ③ 鉄骨サイズの変更
 - ④ 鉄骨業者へ指示
 - ⑤ 再度修正モデルにて干渉チェック

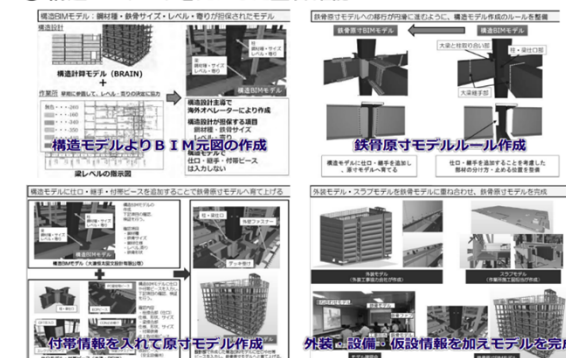
一般社団法人 日本建設業連合会

23

▲ 前田建設の場合

3. 生産情報を設計に反映（実現までのプロセス）

④ 構造BIMデータを元にした整合確認



現場をフルBIMで
進める決意を伝える

一般社団法人 日本建設業連合会

15

▲ 竹中工務店の場合

- ◎ 作業所長が中心となった「BIM」の取り組み ▷ 一方、次の担当現場でも継続できることが肝要！
- ▷ 職員に向けての教育・技術伝承にも活用できる！
- ▷ 作業所長の方針により「ノンBIMユーザー」と「BIMユーザー」が融合できる！

参考 | 管理や検査でのデータ活用

自分の業務が効率化できるのは当然として、次工程の技術者にも効果があるスタイルを追求

IV BIM 活用レシピ

2025年3月版新レシピ

17 出来形検査

- 床スラブコンクリートの出来形確認を題材とした活用
- BIMモデルと実測データを重ね合わせて確認作業を効率化

- 材料**
- 建築モデル(検査部位のみで可)
 - 敷地モデル(検査部位のみで可)
 - 出来形の三次元測量データ、モデル
 - 基準点 (BIMモデルと測量データを重ねるため)

- 準備**
- 検査のための実測精度、その他条件を事前に協議
 - 三次元測量機器を選定(例:トータルステーション、TLS[®]、ドローン、など)
 - BIMモデルと測量データを重ねるための基準点を現地に設置

手順

- ①検査対象部位のBIMモデルを準備
- ②打設後のコンクリート出来形と基準点を三次元測量
- ③基準点を使ってBIMモデルと測量データを重ね合わせ
- ④専用ビューワを用いて差分をカラーマップ表示するなど可視化、関係者へ共有

◆BIM活用前後の比較

	BEFORE	AFTER
視認性	二次元野帳や表形式で検査結果を表示	3Dビュー、カラーマップ表示など視覚的に分かりやすい
検定効率	検査箇所を指定した箇所のみの検査	箇所かつ網羅的な検査
資料作成	検査結果をCADや表形式へ転記	専用のビューワなどを活用して差分を自動計算

◆活用シーン

- 現場**
- 施工実施状況の確認
 - 専門工事会社との出来形、出来高共有
 - 前作業の出来形に応じた精緻な施工計画

◆効果

項目	取り組みやすさ	適用性	品質	コスト	施工	安全	環境
評価	○	○	◎	△	○	○	—

◆注意点・アドバイス

- 重ね合わせのための基準点設置やソフトウェア操作が検査精度に直結します。事前に注意して計画、協議しましょう。
- 測量機器、ビューワにも多くの市販製品、無償ツールが存在します。目的や条件に応じて適切に選択しましょう。

※ TLS: terrestrial laser scanner

12

IV BIM 活用レシピ

2025年3月版新レシピ

20 仕上検査

- BIMモデルの豊富な情報を手元に仕上げ検査が可能
- BIMを活用して検査業務の効率化と記録の共有

- 材料**
- 建築モデル(検査)
 - iPad、Android等のタブレットまたはスマートフォン

- 準備**
- 指図書事項になりやすい仕上げのモデル分類を確実に反映したうえでモデル化を実施する(例:壁クロス、床シートフローリング、サッシまわり、システムキッチン等)
 - ビューワ・検査アプリを事前に決定し、BIMモデルの情報連携に応じたモデリングルールを決める

手順

- ①検査アプリごとに連携できる項目の調査とBIM作成ルールを整理する
- ②検査モデルの作成と、連携できる項目に応じたデータを整備する
- ③検査アプリへBIMモデルをインポートし、iPad等の携帯端末で閲覧・共有できるようにする
- ④検査アプリを持っていない場合は、右の画像のように部材・仕上げ単位でモデル情報が見られるビューワでもOK
- ⑤検査指図書事項を入力する
- ⑥修正内容の共有、追跡、確認をBIMモデル内で行う(管理する)

◆BIM活用前後の比較

	BEFORE	AFTER
視認性	2D上で平面的な位置をプロット	3Dビューで高さ位置も含めた記録が可能
情報共有	印刷物のやり取りで情報共有・修正確認	クラウド上でリアルタイムに修正確認
資料作成	検査記録を紙として保存	検査記録をデジタルで保存し、関係者間にも共有

◆活用シーン

- 現場**
- ビューワに内蔵される設計図書等を活用した検査実施
 - BIM対応の検査アプリを利用し指図書側のデータベース化

◆効果

項目	取り組みやすさ	適用性	品質	コスト	施工	安全	環境
評価	○	○	◎	△	○	—	—

◆注意点・アドバイス

- 3Dビューの操作になれるまでは、検査スピードに遅い場合があります。まずは自主練習等で慣れをおすすめします。
- 検査アプリによってBIM対応の仕様が異なるため、事前に使用するアプリを選定し、モデリングルールを確立しなければ、検査で活用する環境を構築できない可能性があります。

18

IV BIM 活用レシピ

2025年3月版新レシピ

18 鉄骨精度管理

- 実測データとBIMモデルを比較してリアルタイム精度管理

- 材料**
- 建築モデル(検査部位のみで可)
 - 敷地モデル(検査部位のみで可)
 - 出来形の三次元測量データ、モデル
 - ベンチマークデータ(重ね合わせ用に現地に設置したもの)

- 準備**
- 検査のための実測精度、その他条件を事前に協議
 - 三次元測量機器を選定
 - BIMモデルと三次元測量データを重ね合わせるためのベンチマーク箇所を事前に選定

手順

- ①検査目的のためのベンチマークを現地に設置し三次元測量
- ②ベンチマークを基準としてBIMモデルと三次元測量データを重ね合わせ
- ③専用ビューワを用いて差分を表示するなど可視化、関係者へ共有

◆BIM活用前後の比較

	BEFORE	AFTER
視認性	二次元野帳や表形式で検査結果を表示	カラーマップ表示など視覚的に分かりやすい
検定効率	検査箇所を指定した箇所のみの検査	検査箇所を指定した箇所のみの検査
資料作成	検査結果をCADや表形式へ転記	検査結果の自動化、省力化

◆活用シーン

- 現場**
- 建方実施状況の確認
 - 建て入れ直し方針、方法の早期把握
 - 監理者との情報共有

◆効果

項目	取り組みやすさ	適用性	品質	コスト	施工	安全	環境
評価	△	○	◎	△	○	○	—

◆注意点・アドバイス

- 重ね合わせのためのベンチマーク設置やソフトウェア操作が検査精度に直結します。事前に注意して計画、協議しましょう。
- 測量機器、ビューワにも多くの市販製品、無償ツールが存在します。目的や条件に応じて適切に選択しましょう。

※ TLS: terrestrial laser scanner

14



▲ 施工BIMの活用ガイド (第2版+増補版)

新たな知見や動向、新たな事例などを加えた(第4版)を編集中です!

▷2026年度日建連BIMセミナーで解説(予定)

▲ 出来形検査

▲ 仕上検査

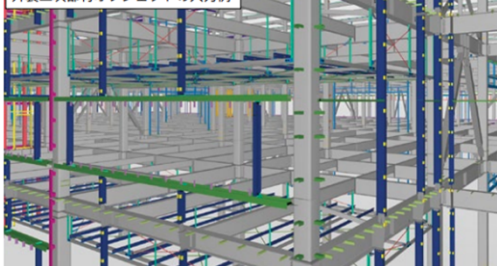
▲ 鉄骨精度検査

視点③ | 専門工事会社とWin-Winの関係

【施工管理②】元請はBIMのモデル提供依頼と図面承認の業務とが乖離していないか

②外壁二次部材の検討

外装二次部材オブジェクトの入力例



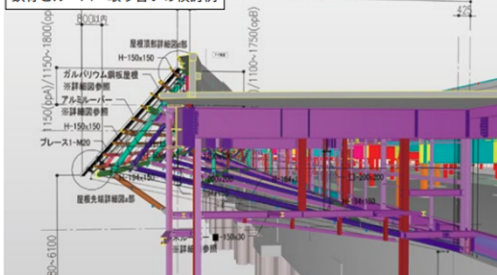
活用ポイントと課題

難易度：☆☆☆ 中級者向き

- 胴縁割付、外壁目地割、建具位置など、外壁まわりの鉄骨二次部材の納まり検討を行える
- 鉄骨の調整に時間が掛かるため、着手時期の明確化と作図時間の確保が必要
- 鉄骨は部材数が多くなりデータ容量が大きくなりがちのため、ビューワでモデルを快適に閲覧できるツールが必須
- 複数のモデルを重ねて行う調整は、各社がデータを共有・閲覧し、問題点を共有できる環境下で行わなければ時間を要する

③複雑な外壁形状の二次部材の検討

鉄骨とルーバー取り合いの検討例



活用ポイントと課題

難易度：☆☆☆ 上級者向き

- 図面だけではイメージが出来ない多面体形状や曲面など複雑な形状の外壁や屋根、下地鉄骨のモデル確認
- 製作上の要点(部材の座標点や折れ曲がる位置、ねじれなど納まり)を理解したモデル作成が必要で、施工知識とモデル作成スキルの難易度が非常に高いため、対応可能な専門工事会社が限られる
- 関係する工種が増えてモデル連携する会社が増えると、工種間でモデルの重複が起こらないよう、各社間でモデルの作成区分を明確にする必要がある(工種間でモデルの重複がないよう管理が必要)

▲ 鉄骨2次部材の調整 (鉄骨FAB + ※※)

②鉄骨建方開始前

建方工事検討モデル



活用ポイントと課題

難易度：☆☆☆ 中級者向き

- 段差部の開口はないか
- 巾木の不足はないか
- 開口部養生は問題ないか
- 施工上邪魔にならないか
- 手が届くのか
- 適切な作業姿勢が取れるか
- 鉄骨仮設の検討
- 上下作業の有無の確認
- 開口部の有無と対策
- 昇降設備の確認と位置検討

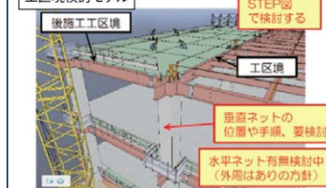
活用に対する評価

建方検討会での関係者間でのイメージ共有に繋がった。

職長や作業員への作業開始前の注意喚起やリスクの洗い出しの際に役に立った。

③工区境検討

工区境検討モデル



④外装工事着手前検討

活用ポイントと課題

難易度：☆☆☆ 中級者向き

- 鉄骨建方開始前のチェック項目に加えて…
- 仮設盛替えの必要性があるか
- 工区境の開口部対策は検討されているか
- 工区境の作業を行う時の動線検討(ボルト締め、溶接作業等)
- 後工区の壁落防止措置検討(水平ネット、スタンション等)
- 前工区の仮設が作業の邪魔にならないか

活用に対する評価

工区境の事前3D検討により手戻りや盛替えのコストを最小限で抑えることが出来た。

外装工事における元請との作業打合せをスムーズに行うことが出来た。

▲ 鉄骨2次部材の調整 (鉄骨FAB + 他工種)

◎ 【目的】 製造の工程確保 (山崩し・材料調達・残業なしなど) | 【手段】 BIMによるすり合わせ業務効率化

参考 | BIMモデル合意 | 管理・製造連携 (例)

日建連BIMセミナー2025 | BIMモデル合意が多くみられる

取組みの概要

土木連携編

現場及び専門工事業者による躯体図モデルとの整合性確認も実行

建設機械メーカー(コマツ名古屋)と連携し、2Dの根切図にレベルをあてて3D化、建機モニター上のモデルの視認性を向上させた。

9

▲ 掘削 (大成建設の場合)

取組みの概要

① 躯体モデルから抽出したデータと型枠ソフトとの連携

Revit + Tenkai_Pro

躯体だけのビューを作成

タイムソフト [BIMコンバータ]

躯体形状を取得したデータ

7

▲ 型枠 (長谷工コーポレーションの場合)

取組みの効果

効果 設備フロントローディングの実施により設計時点の問題点を早期に明確化・把握することが出来、重大な問題の解決につながった

8

▲ 設備サブコン (西松建設の場合)

説明1 | BIMモデル合意 (トラス・膜・ACW)

各工種が取り合う箇所を関係者がBIMモデルで確認しながら協議・調整を進める
トラス・膜・ACWの納まり調整 | 多くの情報をBIMで一元化することで情報を整理

H鋼下地へのACW形状と納まりの確認 (YKK AP)

全体の納まり確認と調整 (作業所)

ACW

15

▲ 鉄骨FAB・ACW (前田建設の場合)

管理・製造連携の事例もあった

② 自社開発ソフト「BIMLOGI®」による工事進捗と出来高の4D管理
専門工事会社によるモデル作成と進捗入力

BIMLOGI®

専門工事会社入力

進捗入力

工事別モデルの作成

工区・工程の可視化

遅延の表示

進捗の表示

21

▲ 進捗管理 (鹿島建設の場合)

③ 製作連携

背景と課題

- ・PCメーカー (高松CW) が、3D対応可能な型枠業者 (Rhinoseros活用実績あり) を選定。データのロスがなく連携ができる環境であった

取組内容

- ・生産設計段階から構築したベースモデルを、型枠製作側に「正」の情報源として提供。ACC上でベースモデルを含めた建物モデルを共有した
- ・ベースモデルをダイレクトに型枠製作に活用

成果・効果

- ・ベースモデルを参照して作業可能となり、手戻りや確認の手間が大幅に削減
- ・ACC運用により、最新状態の信頼できる情報を関係者全体で共有

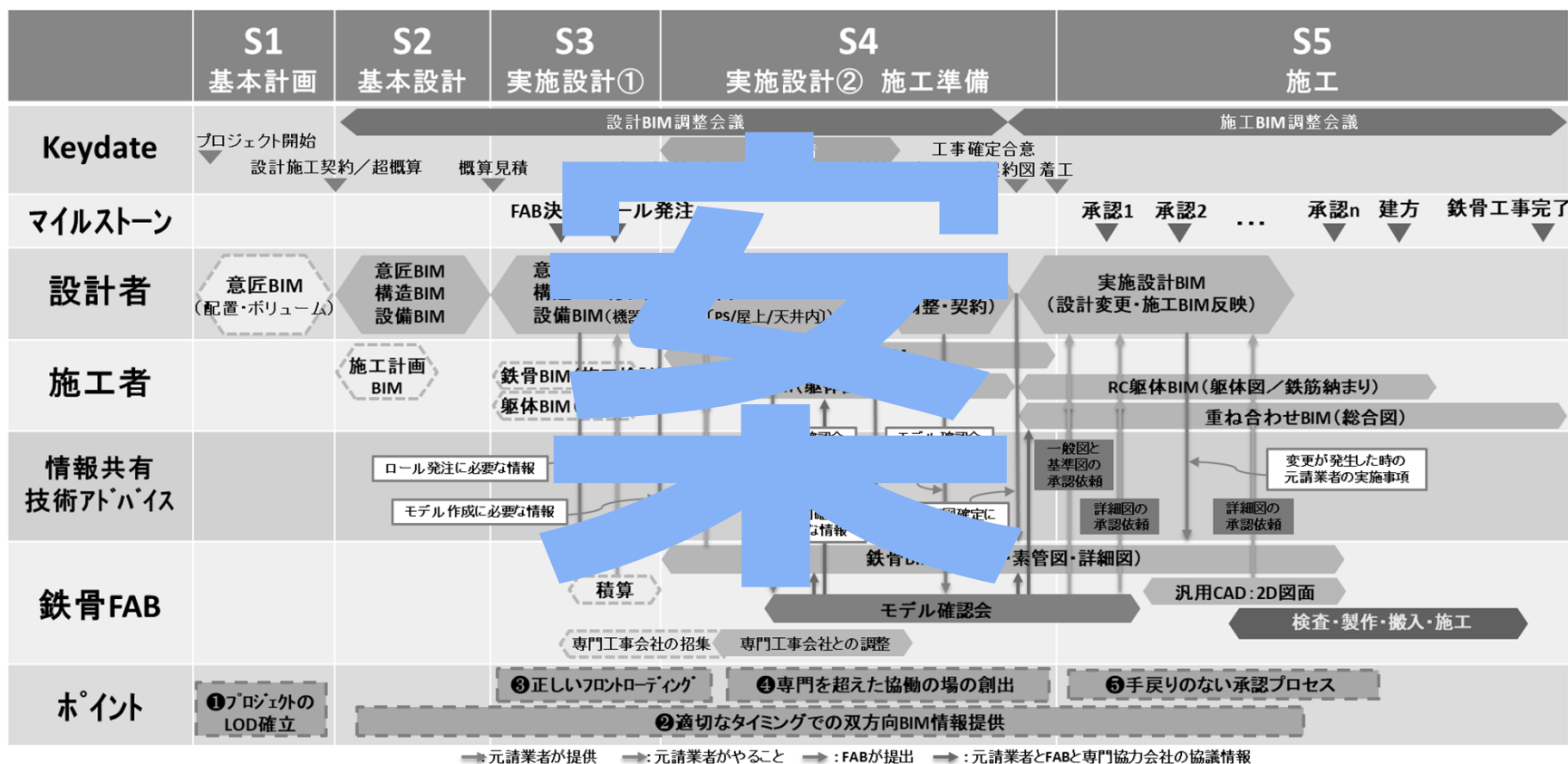
ベースモデルを共通基盤とすることで、製作の質とスピードが大きく向上した

17

▲ 製造とのデータ連携 (五洋建設の場合)

参考 | 次工程（他工種）とのデータ連携

自分の業務が効率化できるのは当然として、次工程の技術者にも効果があるスタイルを追求



お互いにWin-Winになる業務の進め方を鉄骨FABの方々と一緒に検討を進めています！

▷2026年度日建連BIMセミナーで解説（予定）

▲ 鉄骨工事におけるBIMワークフロー（案）

図版出典：日建連BIMデータ連携WG活動成果（素案）、日本建設業連合会BIM部会BIMデータ活用WG、2025.11現在

施工BIMのインパクト2025

視点④ | 建築BIM推進会議（ガイドライン、他）

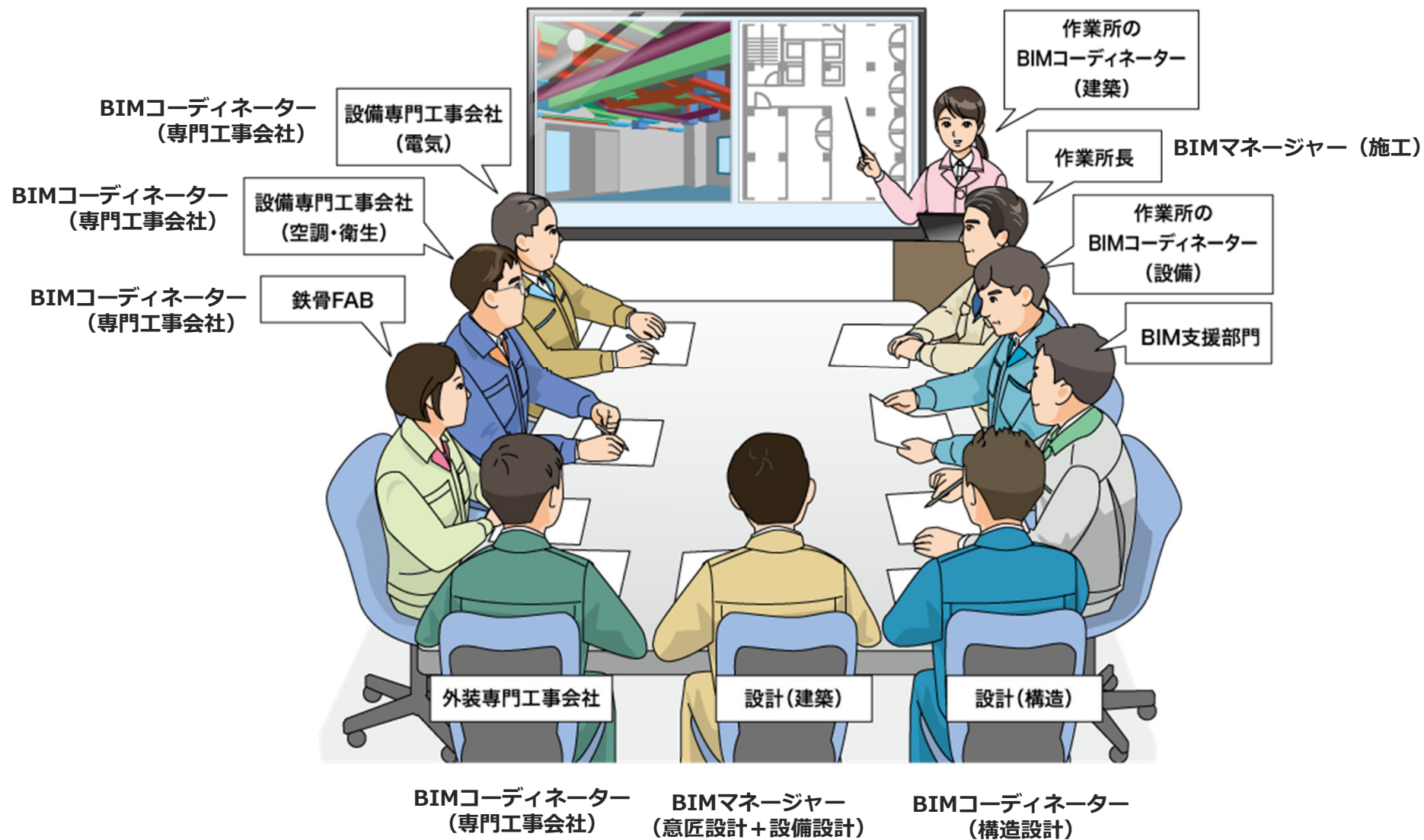
ガイドライン改訂WGに参画 | 建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン

[illegible]

▲ ガイドライン改定方針に日建連の活動成果が参照されている（部分）

◎ 今後も建築BIM推進会議などと足並みを揃え、日建連の成果物にも反映・連携をすすめます

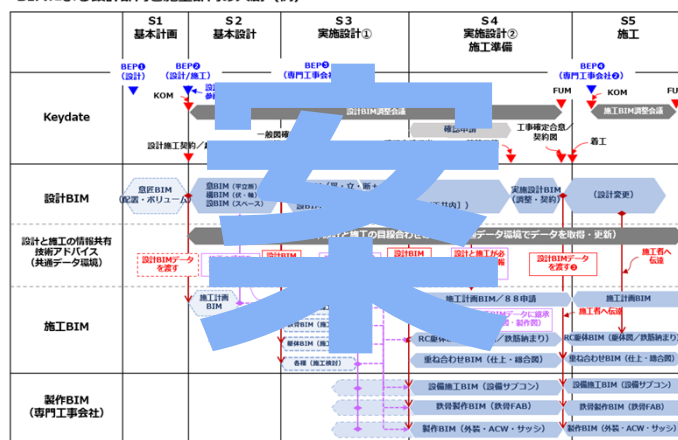
おわりに



原点回帰 + α | 現業の知見 + 新たな技術と併走

原点回帰 | ワークフロー

BIMによる設計部門と施工部門の共創（例）



▲ 設計施工一貫方式での一例

BIMの〈作成〉から情報（データ）の〈連携・活用〉への移行

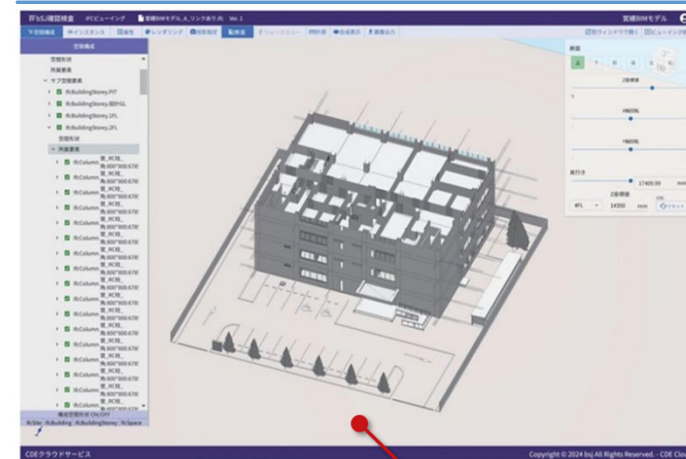
原点回帰 | Win-Winの関係



▲ ノンBIMユーザーも活用する環境

連携する相手の立場にとっても効果があることが大前提。重ね合わせの可視化の先へ

+α | 共通データ環境（CDE）など



▲ 確認申請BIM

3Dモデルを閲覧

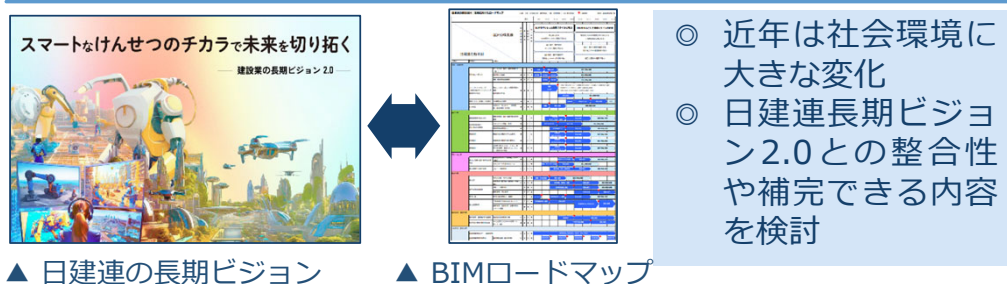
図版出典：建築確認におけるBIM図面審査を実現するための申請・審査環境に関する説明会～BIM図面審査及び確認申請用CDEの概要～、建築行政情報センター、2025.05

◎ 生産現場における技術の定着は「シーズ」のアプローチだけでは不十分

- ▷ 推進者が先陣を切って自らが実際のプロジェクトで運用してみる気概も必要（工務的な知見が重要）
- ▷ 生産現場における「ノンBIMユーザー」が意識しなくても扱える手法との組み合わせ（新技術との連携）

まとめ | 確立（2025）から定着（2030）へ

日建連のBIMロードマップと長期ビジョン



2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
BIMを中心とした業務スタイルの確立					BIMを中心とした業務スタイルの定着				
発注者も含め BIM活用メリットの理解が深まる					発注者からBIM活用要求が一般化する (=BIM活用が必然となる)				
設計施工一貫方式の メリットの理解が高まる					設計・施工分離発注案件でも 設計施工のBIM連携利用が進む				
設計施工一貫方式案件で 設計施工のBIM一貫利用が進む					施工と製作の連携が進む				

▲ 確立から定着へ推進を進める計画としている

定着に向けて（2030）

継続

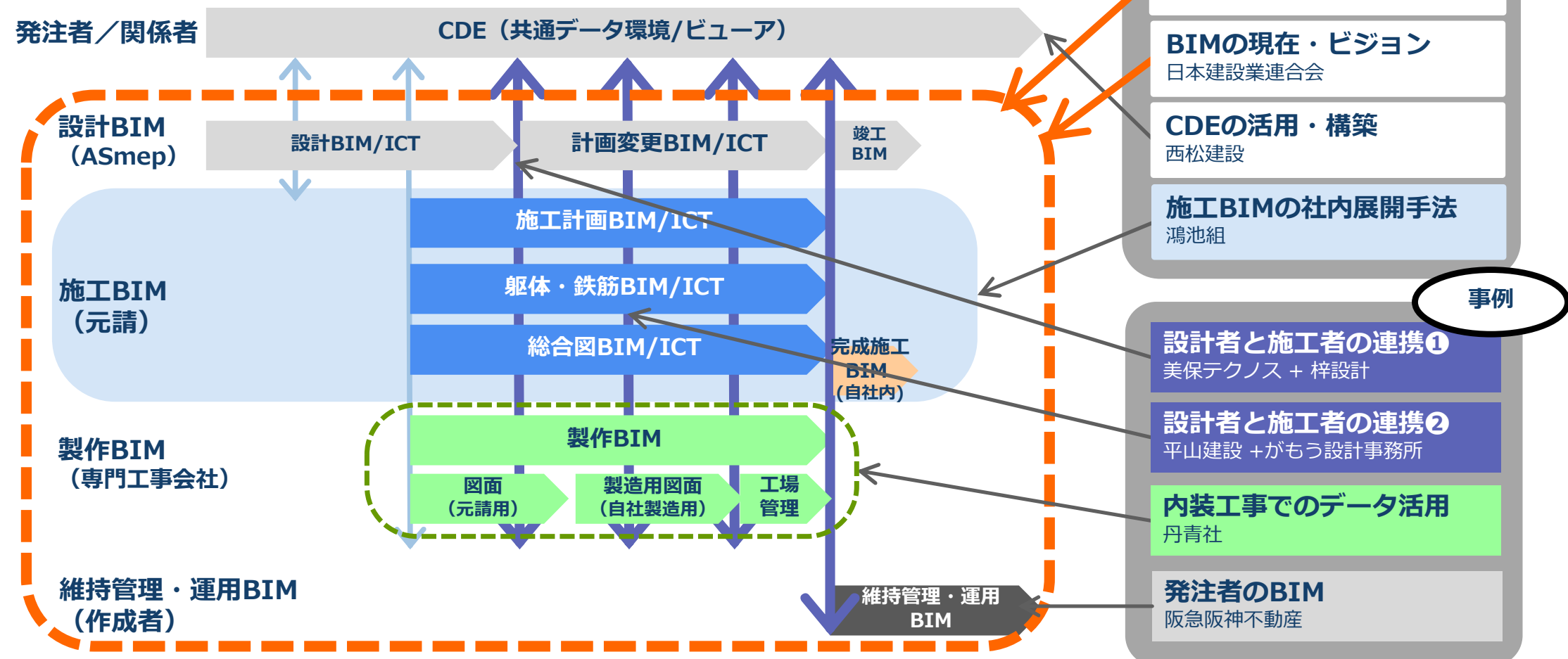
- ◎ ワークフロー（データの連携）
 - ▷ 自分はもちろん相手にも効果
- ◎ BIMデータ（作成体制・作成方針）
 - ▷ 設計者・専門工事会社との連携

受容

- ◎ BIM未活用層（アプローチ）
 - ▷ 若手は令和の教育（デジタル世代）
- ◎ 管理・製作・検査（フィジカル）
 - ▷ 他ソフト等とのデータ連携

本セミナーにおける各セッションの位置づけ

現状
推進



▲ BIMワークフロー (概要)



資料の公開先 | 日建連BIM部会

日建連BIM部会HPのスクリーンショット。左側には「BIM部会」のナビゲーションメニューがあり、「部会紹介」「セミナー」「刊行物」「報告書・その他資料」「意見交換会議事録」「設計/施工/設備/ICT/他」が並んでいます。中央には「BIM部会」の概要と「2016年以降から始まった社会のデジタル化は、わたしたちの業務を大きく変革しようとしています。」という文章が掲載されています。右側には「施工BIMのスタイル 2020 購入申込はコチラ」や「日建連の建築BIM 定着に向けたロードマップ」などのリンクがあります。下部には「最新ニュース」のリストがあり、2023.06.30の「設計施工一貫方式におけるBIMのワークフロー（第2版）」が「NEW」として紹介されています。また、「部会紹介」「セミナー」「刊行物」のタブがあり、「セミナー」タブが選択されている状態です。

施工BIMのインパクト (主催: 日刊建設通信新聞社)	
講演資料等	
開催年度	サブタイトル
2024年度 NEW	生産性向上の未来を拓く
2023年度	現場デジタル化への道筋
2022年度	生産性向上から建設DXへ
2021年度	-
2020年度	-
2019年度	生産性向上の未来を拓く
2018年度	生産性向上の未来を拓く
2017年度	生産性向上の未来を拓く
2016年度	生産性向上への挑戦
2015年度	-

設計施工一貫方式におけるBIMのワークフロー (第2版)	
2023 (令和5) 年 6月	一般社団法人 日本建設業連合会 建設本部 建築 BIM 合同会議

設計施工一貫方式におけるBIMのワークフロー (第2版)	
2023 (令和5) 年 6月	一般社団法人 日本建設業連合会 建設本部 建築 BIM 合同会議

● 施工BIMのインパクト2024					
2024年11月7日 (木) にWEB開催された本セミナーにおいて、日建連BIM部会 曾根部会長が基調報告しました					
NO.	資料名	会社名	登壇者	DL	備考
001	基調講演1 施工BIMの最新動向2024	日本建設業連合会 (前田建設工業株式会社)	曾根 巨充		-
002	基調講演2 BIM普及に向けた住宅施策の最新動向	国土交通省	平牧 奈穂		-
003	大阪・関西万博大屋根リングにおけるBIMを中心としたフロントローディングによる生産性向上	株式会社竹中工務店	中島 正人		-
		銘建工業株式会社	永松 裕介		
		SUDARE TECHNOLOGIES 株式会社	丹野 貴一郎		
		SMB建材株式会社	三河尻 明子		
004	Hi-BIM@〜ヒロセBIMについて〜	ヒロセ株式会社	加藤 俊		-
005	施工に役立つBIM活用法「設計から現場へ」	株式会社アルク設計事務所 小川工業株式会社	今西 淳夫 平塚 健太郎		-
006	中小企業のBIM推進〜会社に合った成長とBIM文化の作り方〜	株式会社澤村	徳永 康治		-
007	ISO19650・CDE〜意思決定プロセスのDX化〜	三建設工業株式会社	榎原 正也		-
008	プラットフォームを活用したBIMを含む各種データ連携	旭化成株式会社	江崎 和文		-
009	維持管理フェーズにおけるBIMの有効活用	鹿島建物総合管理株式会社	磯貝 淑之		-
010	質疑応答	-	-		-
-	講演内容が掲載された新聞記事	日刊建設通信新聞社	-		-



確かなものを 地球と未来に
一般社団法人 **日本建設業連合会**
JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS